

令和6年度 第2回八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会 会議録

【日 時】 令和7年2月20日（木）14:00～15:30

【場 所】 八代市役所本庁舎2階208会議室

【事務局】 教育長、教育部部長、教育部次長、博物館館長ほか職員5名

【次 第】

- 1 教育委員会挨拶
- 2 協議会会長挨拶
- 3 議題

【議事並びに発言要旨】

(1) 報告事項

■ 令和6年度事業報告及び事業予定について

- (ア) 展覧会活動
- (イ) 教育普及活動
- (ウ) 調査研究活動
- (エ) 資料収集活動
- (オ) 改修工事について
- (カ) 博物館利用者のサービス向上のための準備

**会長** ただ今の説明について、何か質問、意見等ありませんか。

**委員** カフェはとても見晴らしが良い場所なので、博物館利用者だけではなく、外から来られる方も利用できる体制にした方が良いと思う。宣伝が足りない。採算性を考えると中々厳しいので営業としてやる方だけではなく、趣味として楽しみでやる方まで募集を広げたら希望する人もいるのではないかな。経費も必要最低限となるようにすれば出来るのでは。

**委員** 儲けを度外視して楽しみでやる人はなかなかいないのでは。

**委員** 料理が好きでやりたい人もいるかもしれない。ただ、売上の何パーセントを納めるという形では厳しいと思うので、そこは度外視して最低限の経費にする必要がある。

**会長** 委員が言われるとおりに見晴らしがよく素晴らしい場所だと思うが、あまり知られていないようなので更なる周知が必要と思う。遊休施設のままというのも問題なので、いただいた意見を踏まえてなんとか再開に向けて努力を続けていただきたい。

**事務局** ご意見をいただいた手数料については、何パーセントという決まりがあり市の

他の施設との兼ね合いがあるが、そこを含めて出店しやすい環境整備を考えていきたい。

**委員** この博物館は貸会場としてとても搬入しやすく利用しやすい。少し手狭ではあるが個展や二人展等の規模の利用にはとても良いのもっと宣伝をしたらよいと思う。ただ外付けエレベーターがないので高齢化に向けて今後整備を考えていってほしい。

**会長** 事務局の方で検討をお願いします。  
出前講座等では例年以上に多くの講座を開講してがんばっておられるが何かご意見はないでしょうか。

特になし

～ 引き続き事務局より説明 ～

(2) 協議事項

- 令和7年度事業計画（案）について
  - (ア) 改修工事について
  - (イ) 休館中の博物館事業について

**委員** 「昔のくらしと道具展」について、本年度はでんでん館にて開催され小学校6校の見学があったとの事だが、例年見学が多い10月～11月から外れた会期であった。次年度は8月19日～10月5日の開催予定ということだが、授業のカリキュラムに合った時期に開催できないものか。

**事務局** 学校の予定に合わせて計画をすべきという事は重々承知しているが、会場のでんでん館主催の催しが10月～11月には既に入っており、また11月末の妙見祭に関連する行事も入っている事から、会場に空きのある時期での開催となった。他の施設を検討しなかったのかという意見もあるかもしれないが、でんでん館はすぐ隣の施設であり展示物の移転がしやすい点と職員がすぐ駆けつけて展示案内が出来るという利便性があることからこのような選択をしている。ご意見ありがとうございます。

**委員** 8月19日からだと夏休みが残り少ないので、可能であればもう少し前から開催してもらおうと小学生も保護者と来やすいかなと思う。

勤務先の中学では高田校区内の史跡について中一で学んでおり、遙拝神社、奈良木神社、南朝の御所跡、平山城跡等の史跡があり興味深いと思っている。地域の方に見学に同行してレクチャーしてもらっているが、もっと深く知るために博物館からこのような史跡について話をしてもらう事は可能か。

**事務局** 可能である。ご相談ください。

**会長** 県立美術館には収蔵品の収納、松井文庫所蔵名宝展の共催等、尽力をいただい

ているが何かご意見はないでしょうか。

**委員**

松井文庫は、煙草入れ、能道具、お茶道具等たくさんの素晴らしいものを所蔵されていると改めて感じている。博物館ではそれらの物を預かれ大変だろうと思う。県立美術館で一時期せつかく預かるので八代市民だけではなく、県民にも美術館の会場で松井文庫の素晴らしい所蔵品を出来るだけ多くの方に見ていただきたいと準備をしているところである。また、松井文庫が40周年ということで、県民にもっと松井文庫を知っていただくと共に、収益をあげられないかと、松井文庫の素晴らしい道具をモチーフにグッズの作成を進めている。このような紫式部のクリアファイルや可愛い楊枝入れ等ポップなグッズを販売して、少しでも役に立てればと準備をしているところである。県立美術館で松井文庫の所蔵品を大規模に展示するのは何十年ぶりであり、初めて展示する品もあると思うので、県立美術館でも宣伝するが是非八代市の方でも宣伝をしてもらって松井文庫40周年にふさわしい、たくさんの方に来てもらえる展覧会にしたいと思っている。

**委員**

松井文庫にこれだけの物がある事を元々八代市民が知らない。素晴らしいものがたくさんあるのに一般市民が知らないのは宣伝が不足していると思う。発信先を美大や美術関係者に広めると喜んで見にくると思う。地元の人にこんなに良いものがあると知らせないとこの先なくなっていくと心配している。新しいものだけではなく古い歴史をちゃんと見ないとだめ。そういう歴史を学校でも教育し早めにカリキュラムを組んで予定していかないといけない。

**会長**

学芸員のみなさんは調査・研究は得意だろうが広報の方にも更に力を入れてほしいと思う。

**委員**

再開館した時に人を集める工夫が必要だと思う。展示内容を見るととても価値が高く常連の方がそれを期待して来館すると思うが、常連の方以外や若い方にどうやって来てもらうか、子どもたちにどうやって興味を持ってもらうか、そしてもし新しくカフェが入るならその集客をカフェの人だけに任せるのではなく協力する必要があると思う。もし、私が博物館を運営する立場ならどうやって人を集めるかを考えるとポップカルチャーに活路を見出すと思う。例えば昔のおもちゃやゲーム、レコード、CD、ポスター等学芸員の専門ではないとは思いますが展示場で展示するものでもないかもしれないが、八代の博物館の魅力は外にあると自分は思っている。芝生や駐車場から入口までの道のりは遠くて坂があり歩きにくいので弱点ではあると思うが、そこまでの道に絵を飾ったり先ほどのおもちゃ等を飾ったりして歩くのが退屈ではなく先が楽しみになる仕掛けを自分ならすると思う。高原の観光地では森の美術館があって建物の外の木の下や歩道の脇に絵を飾ってあって素敵だった。壁に飾る絵も良いが外の景色の中にある絵もそれはまた絵の魅力が違って見える。もちろん高価なものは置けないと思うがそこに置ける程度のものを置く価値はあると思う。なぜこのよ

うな話をするかという、人を集めるのには変わった事をする必要があるし、マスコミに取り上げてもらうには工夫が必要である。簡単にできる事としては冬場に電飾を飾るとか七夕の時期にも似たような事が出来るかもしれない。電飾を見た人が博物館を認識し、カフェがあると気付く人がいるかもしれない。そのように今までしていない工夫をすればじわじわと入館者も増えカフェの利用者も増えると思うので参考にしてもらえたら思う。

**会長** 素晴らしい提案をいただいた。検討をしてみてください。

**委員** 博物館は一般の人にとってレベルが高く行きづらく思っている人が多い。自分は老人クラブの担当をしているが、会員から私たちが博物館に行っていていいんですかという声があった事もある。しかし、学芸員に説明をしてもらってみんな喜んでいて。もっと博物館が一般的になる何かが必要だと感じた。

**委員** 博物館は八代のものであり、この施設をどうやったらもっと生かせるか考えていかなければならない。規則にとらわれず考え方をもっと柔軟かくしてほしい。

**委員** 県立美術館も自分たちが思っている以上に、外から見れば敷居が高いと思われると感じる。効果は何十年後しか表れないかと思うが、小さいころから美術館に行くという経験をしておくと少しは敷居が低くなると思うので、絵を鑑賞するというより、まずは、子ども向けのイベントを楽しみに来てほしいと考え、先日バレンタインの時にチョコレート作りというイベントを行った。また、「ユニークベニュー」といった美術館、博物館の本来の目的とは違うがコンサート等のイベントも復活の予定をしていて、本来の絵画展示以外のイベントなどに来てもらうことで、敷居を低くする方法を考えている。

**会長** ご意見ありがとうございます。職員にも限界があると思うががんばっていただきたい。

**委員** 再開館後に期待する事のアンケート結果について、八代の歴史の掘り起こしや干拓について出ているようだが、近現代の歴史、特に産業について等は取り扱えないか。8中校区には和紙作りがあるが、それが十条製紙の工場に繋がっていたし、現在のハーモニーホールのところにあった球磨川駅の貨物置場や、ゆめタウンのところに日本セメントがあったとか、またそのころアーケードがとて賑わっていたとか、そういう頃の歴史を掘り起こす事で、その時代に頑張った方々がもう一度元気になったり、その家族が見に行ったりして繋がりがでてくるかと思った。また、アンケートの回答者年齢が60代以上が90%を超えていて30、40代は1人という事だが、昔は博物館の1階で彦一とんち話が見られるコーナーがあったような記憶がある。そんな八代に昔から伝わるたくさんのおんち話を図書館等で展示や読み聞かせの企画を行えば子ども連れの家族は来てくれて、それが博物館にも来ることにも期待できるのではないか。歴史あるものも当然興味もあり大事だが、少し守備範囲のふり幅を広げる事も一つの手かなと思う。

**委員**

鹿子木家文書調査の担当者が退職したとの事で、学芸員もこれだけたくさんの活動をしながら調査研究をぎりぎりの状態でやっていると思う。自分の大学では古文書実習の授業があり、その一環として以前、野崎新地干拓資料の目録作成の手伝いをしたことがある。これだけの点数があって途中で一旦調査が止まると再開が大変になるので、もし必要であれば相談いただくと県内の国立大学として博物館と連携して進める事が出来る。目録全体が完成してからこそ地域の歴史を知る上で活用できる。部屋を3日ほど用意してもらったら学生20名程度で来て目録作成の作業をする事が出来るので要望してもらったらこちらも準備をする。

**会長**

大変ありがたい提案をいただいた。事務局でぜひ相談してみてください。

**委員**

展示室の展示は今のままの考えで良く博物館の本質があると思うが、そこに新しい人を誘うための工夫が必要だと思う。毎日ではなく展覧会前の土日の二日間だけでも外で展示を行うと効果がある。例えば子どもたちに博物館や松浜軒、八代城址、でんでん館等の建物の絵を募集して入選作品を外に展示し表彰式を行えば、子どもたちやその家族、親戚は博物館に来るだろうし、将来的に博物館に親しみを持ってくれる。労力がかからない割には効果があると思うのでそのような工夫をしていただきたい。

**委員**

近くに図書館があるので連携して博物館のイベントに関する紹介コーナーを設けてそれに関する漫画の日本の歴史の本を置いたら子どもたちが博物館の展示を見に来てくれるかもしれないし、また図書館にも学びを深めるために本を借りにくるかもしれない。そうやって裾野をひろげてもらいたい。昨今、地域の語り部の後継者が中々いないが、ただ話を聴くだけではなく自分たちで学んでみたいと思う場面設定を博物館、図書館、でんでん館等で連携して場を繋げてもらうと地域について学び本を読んで記憶に残っていくと思う。そしてそれが未来の語り部の育成の種まきに繋がっていくのでは。図書館職員と一緒に出来る事があるとお互いの市の施設であり良いと思う。

名前に「未来の森」が付いているので子どもたちを巻き込むと未来への種まきのアクションができると思う。現在小学3年生が見学している「昔のくらしと道具展」に併せて「未来の八代の宝物展」という形で今使っている道具と一緒に展示すれば数十年後の未来になった時にそれらがどういう感じになっているか想いを馳せる機会になると思う。

カフェに名物スイーツがあればお土産にできるし、中高生の家政科で夏休み等にスイーツのコンペを行い上位作品を博物館のカフェで名物スイーツとして紹介する機会があれば、中高生の情報発信力を使って若い人たちが長期休暇期間中に博物館に来てくれるのでは。松井家の刀の鞘の型にチョコレートを流し込んでお菓子を作って歴史を感じながら景色の良いところでゆっくり休憩してもらえるのでは。

- 委員** 近年、食品の取り扱いが厳しくなっている。アイデアは良いと思うが博物館職員だけでは限界があると思うので、色々なところに声を掛けてみんなでやっていくと子どもたちも集まってくると思う。
- 委員** 博物館単体で考えるのではなく色々な分野と一緒に考えるとたくさんのアイデアが出てくると思う。そうやって出てきた提案の中で出来そうな事をやっていく体制が必要。
- 会長** 貴重なご意見、ユニークな提案ありがとうございました。ぜひ検討してください。

～ 引き続き事務局より説明 ～

(3) その他

- 再開館後の取り組みについて (山崎)

**会長** その他の説明が終わりましたが何かご意見、質問等ないでしょうか。

特になし

**会長** 活発なご意見、提案をいただきありがとうございました。  
報告事項、協議事項共に終了したので、会議の進行を事務局にお返しします。

5 館長謝辞

～ 15時30分 閉会 ～